



「日本版デンバー式発達スクリーニング検査 (JDDST と JPDQ)」

W.K. Frankenburg 著, 上田 礼子 訳

乳幼児検診は生後1カ月・3カ月・1歳6カ月・3歳と保健所で実施されているが、現状として、その検診内容は統一されていない。

昭和50年4月より、DDST 日本版の標準化が著者らにより始められ、東京都における標準化、さらに日本の地域性を考慮し岩手県・沖縄県の標準化により、ほぼ全国的に使用が可能となった。

この本は3部から構成されている。第1部はJDDST 施行マニュアルで、簡明に方法および採点規準が示されている。第2部はJDDST 標準化への経過が統計に基づき述べられている。第3部はJPDQ について、プレスクリーニングの方法・採点方法について簡明に述べられている。JDDST, JPDQ は特殊な検査技術を必要とせず、検査所要時間も短いことが特徴であり、スクリーニ

ング用発達検査としての条件を備えている。

この本は主にスクリーニングに携わる小児科医、保健婦などを対象としたものであるが、著者が冒頭で述べているように、全人間的に子供を発達の中でとらえ、発達上問題の疑われる子供の早期リハビリテーションを計画してゆく上で手掛りとなると考える。また、脳性運動障害児の早期治療により、著明な改善を示す症例が増えてきているが、これらの乳幼児に対する治療終了後の Follow として、定期的にJPDQ, JDDST を実施することは有効であると考ええる。さらに、スクリーニングで発見された、発達遅滞児・発達障害児に係わる小児教育、心理、小児PT・OTなどの分野での人的、質的向上を進めることが急務であろう。

(金沢大学医療技術短期大学部 理学療法士 河村 光俊)

訂 正

本誌15巻11号(1981年11月号)957頁, 本の紹介「日本版デンバー式発達スクリーニング検査(JDDSTとJPDQ)」W.K. Frankenburg 著, 上田礼子訳は, W.K. Frankenburg 原著, 上田礼子日本版著の誤りでした。

また< B 5 版, 110 頁, ￥2,500, 医歯薬出版, 1980 > の表示が抜けておりました。

ここに訂正し深くお詫び申し上げます。

「理学療法と作業療法」編集室